

独立行政法人医薬基盤研究所の
改革案について
《改革案説明資料》

独立行政法人医薬基盤研究所の改革案について

ヒト

1. 組織のスリム化

〈平成21年度〉 5支所
 〈平成22年度〉 5支所

〈平成23年度〉 4支所
 薬用植物資源研究センター和歌山圃場の廃止

国家公務員
OB関連

	平成21年度	平成22年度	削減数
役員	1(非常勤監事) /4	1(非常勤監事) /4	0
職員 嘱託職員(OB)	0/79 3	0/82 0	0 ▲3

※ 政府全体の「研究開発法人」のあり方の検討を踏まえさらに検討

改革の効果

《削減数》
▲1支所(新規)

《今後の対応》
役員(監事(非常勤)):
任期満了後(平成23年3月末)
は公募による選任を希望。

モノ

2. 余剰資産などの売却

薬用植物資源研究センター和歌山圃場(4,847.28㎡)の土地売却

《売却額(見込み)》
▲1.8億円(新規)

カネ

3. 国からの財政支出の削減

〈平成21年度〉 120億円
 〈平成22年度〉 101億円
 ➡
 〈平成23年度〉 96億円

・実用化研究支援事業の新規募集休止等による削減

《削減額》
▲5億円(新規)

4. その他改革事項

○研究開発法人のあり方の検討も踏まえつつ、「国立健康・栄養研究所」との統合を行い、業務の効率化を図る。

《国民への影響》
研究成果を増大

ヒト 1. 組織のスリム化

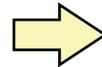
○ 薬用植物資源研究センター和歌山圃場の廃止と技術職員1名の廃止

○ 国家公務員OBへの対応

改革前

役員

1人（監事）



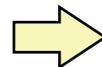
改革後

任期満了（H23. 3）後は公募による選任を希望

<これまでに行ってきた改革努力>

職員

3人（嘱託職員）



ポスト廃止（H21末）

モノ 2. 余剰資産などの売却

○ 薬用植物資源研究センター和歌山圃場の廃止による土地売却（4,847.28㎡）

カネ 3. 国からの財政支出の削減

○ 実用化研究支援事業

平成26年度までに事業見直し。見直しが終了するまで新規募集を休止。

4. その他改革事項

○ 「国立健康・栄養研究所」との統合

研究開発法人のあり方の検討も踏まえつつ、「国立健康・栄養研究所」との統合を行い、業務の効率化、合理化を図る。

○ 無駄な支出の削減

① 職員から無駄削減に関する提言を募集する。

(アイデアボックスを設置し、職員から無駄削減の提案を受けている。)

② 公用車及び業務用車の効率化を進める。(本所の公用車を廃止した。)

③ 事務用品の一括調達、コピー機等の複数年度のリース契約等公共調達の効率化に資する取組を一層推進する。

○ 国民へのわかりやすい情報発信

ホームページの充実を図るとともに、施設の一般公開(5カ年継続開催中)を行い、研究成果によって期待される内容等を国民目線で具体的に分かりやすく情報を発信することにより、国民に対するサービスの向上を図る。



○ 今後、①難病対策、②迅速な新薬開発、③新興・再興感染症対策、の3点に重点を置いて運営。

○ 特に、難病の研究については、治療薬開発に向けた研究のほか、患者さんの生活の質(QOL)の向上等の課題もあり、生物資源研究等も含め一体化して、難病対策に取り組む。